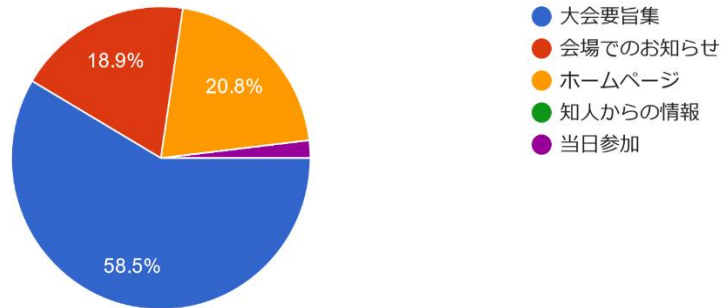


第74回日本細胞生物学会大会 男女共同参画・若手育成ランチョンセミナー アンケート結果  
(2022年6月30日実施)

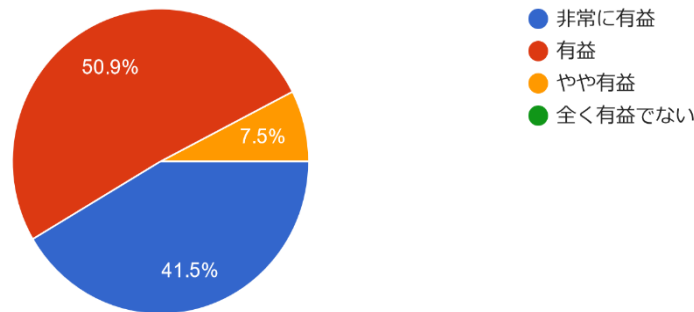
1) 今回の企画をどのように知りましたか？

53件の回答



2) ワークショップについてどう感じましたか？

53件の回答



3) (2)のように感じた理由を差支えなければお聞かせください

- 博士課程に在籍しており進路選択に迫られていたから。
- 日頃は聞けないキャリアが聞けたところ
- 博士号取得後のキャリアの参考になった。
- キャリアパスの参考例をお聞きできた点
- いいスピーカーを選んでいたと思います
- 博士の方のキャリアなど、を知れたから
- アカデミア以外の世界のキャリアパスをとった方の実際の意見を聞くことができたから。今悩んでいる問題だったので。
- アメリカでの保育園事情など、かなり参考になった。正直、子供を連れて留学しに行くのは大変だなとも思ったが、それもふくめて参考になった。また、アカデミア以外の進路を選んだ人の話が聞けるのはありがたかった（学芸員資格ないとマネできないのでは？とは思ったけど）
- 女性研究者の妊娠出産を経たあとの働き方に興味があり、体験を聞いたことが良かった

- 学生が疑問に思っているところに回答する形で対応できていた
- 色々なキャリアパスがあると感じた
- 博士号取得後に進むことのできる道は想像以上に多く存在すると思えたから
- 若手・准若手(講師)中心の企画のため、リアル感が大きいため
- アカデミアを離れたり、URAetcの普段研究室では聞けないキャリアについて体験談を聞いてよかったです。
- 具体的なキャリアの話を知ったので、自身の将来や足りないものなどをなんとなく認識することができたかと思う
- 博士号を取った後のアカデミア以外の進路選択の考え方というのを知ることができ、自分自身の将来を考える上で有意義でした。
- キャリアの紹介はとてもよい試みで、若手の研究者への刺激となるワークショップになったのではと思います
- やはり実際の話は重みがちがう
- 体験談は説得力がある
- 組織を動かす、変るために必要なことを実例を交えて話してくれた
- ぎこちなさがありあまり盛り上がりにくい
- 多様なキャリアについての事例が紹介されたから。ただし若い人には選択のリターンに加えてリスクも伝わったかと思う。
- 自分も5年任期の後半で、進路の岐路に立っていて、年齢も35歳と近く、そういった方の現状が聞いたのが有益だった。わからないことを周りに相談できず、悶々としていたがトライしてみようという意欲になった。
- 研究データの話だけでなく、科学の行き先を考えるのによいと思う
- URAの仕事内容について初めて知ったので
- 色々な人の経験を知ることができるから
- カタくない形式でおもしろく、とても参考になりました。
- オープンに経歴を話してもらい参考になった。
- 研究者以外の進路について話を聞いたこと
- 個人の話聞くよい機会
- 色々な経験を共有できた。学生のキャリア支援の参考にしたい。
- 藤原先生の波乱万丈の人生に驚きました。このように大胆な選択をできるバイタリティーはいったいどこから生まれるのか？
- キャリアパスのイメージが広がった
- 自分自身も博士課程であり、今後のキャリアプランの参考になったから

4) ワークショップの構成・司会進行・時間帯などに関してご意見をお聞かせ下さい。

- ちょうどよかったと思います。
- 問題なし。
- アカデミア以外の道を示すのもいいが、そうだとすると、学生が求める質問がマッチせずディスカッションがあまり噛み合っていない感じがした。

- わかりやすく適切であると感じました。
- 質問する学生と司会進行でもう少し打ち合わせをした方が良い
- 質疑応答で生の声が効けて良かったと思います
- 良いと思います
- 良かったと思います
- 現役の学生から質問をぶつける対談形式の構えは興味深かった。自らも学生の頃に疑問におもいつつも聞けなかったことが、今更ながら聞いたのは有益でした。（海外での生活、語学のこと、渡会馬でのいきさつなど）
- 良いと思います
- 特になし
- 良かった
- 学生さんからの質問コーナーは良かった。
- よろしいと思います。
- 学生とのディスカッションは新企画で良かったと思う。
- 最後の学生ディスカッションの時間はなくても良かったかもしれない。

5) 男女共同参画に限らず、ご自身のキャリア形成で悩んでいる点があればお聞かせ下さい。

- アカデミアのポストが少ないこと？
- 大学での研究者以外の進路を
- ポスト先の選び方
- もっと博士に行きやすい環境、就職がしやすい等あれば良いのになとは思う
- デュアルキャリアや二体問題について。パートナーと同じ場所で仕事を見つけることが困難なので、家族といっしょに住むことが難しいことに困っています。
- 大学院生
- 妊娠出産を、タイミングとしてどうするか、任期付きの場合、またキャリア形成としてその後もつづけられるのか、不安がある
- 子育てとの両立
- アカデミアに残るつもりはないが、道が少なそう
- 博士号を取るかどうか、また博士号を取った後の進路について。自分の興味ある研究をずっと続けたのち、どんな仕事に就けるのか。
- ポスト獲得
- 育休に対する制度
- 若い人が自身の能力と今後の展開についてあまりに狭い視野しか持てない場合があり、対応に苦慮する。
- 大学で昇進するほど研究の時間が無くなること
- いつ子供を産むかとキャリアの関係性。
- 子育て
- 博士号取得後の進路
- 子育てとの両立

6) 男女共同参画推進・若手研究者育成委員会ワークショップではどのようなテーマを取り上げて欲しいですか？

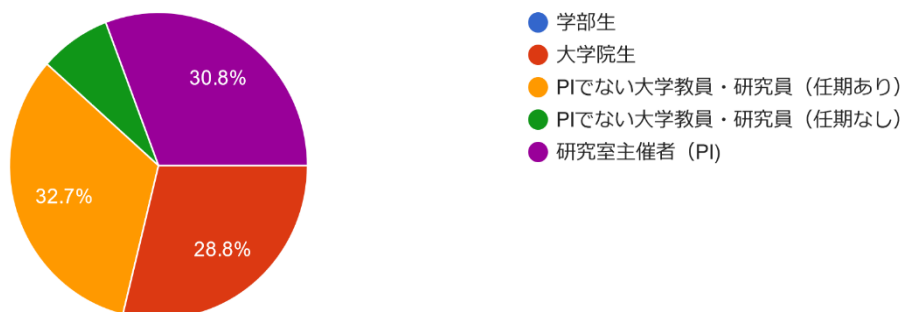
- 日本と外国のアカデミアの制度の違いなど。
- 博士後のキャリア形成について
- 研究者以外のキャリアパスに関して
- 社会人から博士課程への進学の実態
- アカデミア以外の分野から、アカデミアに入ってきた人（30歳以降の研究スロースタートのひと）の話は聞いてみたい。
- 将来の研究プロジェクトをどのように設定するか（特異性・有意性を活かすには）
- 今回のように細胞生物で博士号を取られた方の様々なキャリアを紹介する場を継続して提供していただきたいです
- ラボの選び方
- それぞれ何年前に比べてどうなったか（改善）。生活スタイルの一例など。
- 若手というよりはPIのレベルで若手の将来についての問題をどうするのかのディスカスするパネルディスカッションで、年代間の意識ギャップ等を明らかにすることが必要ではないか？
- 子育てとキャリアの両立
- 大手企業（製薬など）の管理職に人材としての大学院修了者について話してもらおう。

7) 男女共同参画推進・若手研究者育成に関する細胞生物学会としての取り組みとして、ワークショップ以外にはどのような事が必要でしょうか。ご意見ありましたらお聞かせ下さい。

- 支部例会の開催と学生の参加
- 世代間交流の活性化。
- シンポジウムなどに若手、女性比率の目標値を設定する。
- 年会で若手研究者にランチョン又はフォーラム形式の開催企画を1つまかせる
- 今回のようにphD取得後の様々なキャリアを知る機会があれば良いと思います
- 学生向けのzoomを使ったセミナーなど
- 日常的に意見交換や相談をぶつけられるSNSでのチャットなど
- 保育室があっても子供が小さい時は学会に連れてこれるが、小学一中学と、学校での勉強が大事になると、家庭か学会かでえらばなくてはならないこと

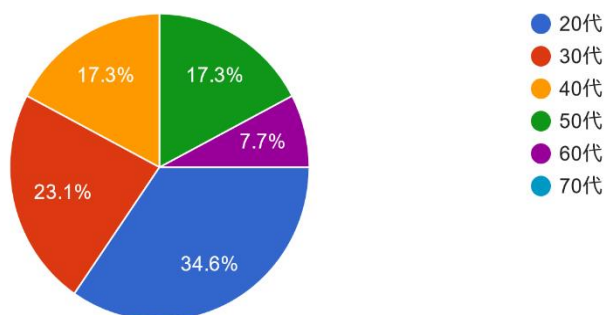
8) 差し支えなければ、属性を教えてください。

52 件の回答



9) 差し支えなければ、年齢層を教えてください。

52 件の回答



10) 差し支えなければ、性別を教えてください。

51 件の回答

